

## 研究テーマ

事例検討プログラムによる経験学習は新人作業療法士の  
クリニカルリーズニング自己評価に影響を与えるか—混合研究法—

## 病院名

医療法人社団健育会 湘南慶育病院

## 研究者

○<sup>ひろせ たくや</sup>廣瀬卓哉(作業療法士) 丸山祥(作業療法士)

## 概要

### 【研究背景】

作業療法の思考プロセスであり専門職としての思考スキルであるクリニカルリーズニング(CR)は、健康関連専門職の教育の鍵と言われ、その教育として事例検討などが取り組まれている。しかしながら、教育・学習方法として十分な根拠が蓄積されているとは言い難い。

### 【研究目的】

本研究は、新人作業療法士(OTR)を対象に、事例検討プログラムによる経験学習からCR自己評価が変化するか量的・質的側面から検討することを目的とした。

### 【研究方法】

本研究は混合研究法(収斂デザイン)を用いた。対象者は、当院に勤務する新人OTRであり、本研究への参加は任意とした。本研究は当院倫理審査委員会の承認(承21-004)、対象者の同意を得て実施された。介入方法は、事例検討プログラムであり、a)事例の振り返り、b)文献レビュー、c)思考過程の整理、d)報告内容の討論とそれに対する教育者からの助言や指導が含まれた(期間:2カ月間)。量的データ収集は、a)フェイスシート(性別、学位)、b)作業療法のCR自己評価尺度(14項目・5段階評定)だった。質的データ収集では、事例検討プログラムの経験に関する自由記述式の調査用紙を配布した。量的データ分析は、ベイズ推定による一般化線形混合モデルを用いた。

モデル設定は、目的変数に作業療法のCR自己評価尺度の5要因(合計得点・4下位因子)、固定効果を事例検討プログラムと時系列(介入前後)、変量効果は対象者の個体差を示す識別番号を投入した。質的データ分析は、再帰的テーマ分析を用いて学習者の事例検討プログラムにおける学習経験を分析した。

### 【結果】

本研究の対象数は10名であった。量的分析の結果、介入効果が認められたモデルは全5要因から2要因[CR自己評価尺度の合計得点(推定値=4.20、標準誤差=1.73、95%CI=0.81-7.78)、下位因子「実践の文脈を活かす思考プロセス」(推定値=1.19、標準誤差=0.46、95%CI=0.29-2.09)]だった。質的分析の結果、事例検討プログラムに対する新人OTRの学習経験として、53のコード、27の構成概念と4つのテーマが特定された。4つのテーマとは、a)実践から学ぶための土台づくり、b)思考プロセスを見直し深める、c)実践を通して専門知識を学ぶ、d)作業療法理念を深める、だった。

### 【考察】

本研究の量的分析の結果から、当院の事例検討プログラムが新人OTRのCR自己評価の一部を改善させた可能性が考えられた。また、質的分析の結果で挙げられたa-dのテーマは、CR学習の基盤となる部分について焦点が当てられた教育効果であると解釈できる。すなわち、当院の事例検討プログラムは新人OTRのCR自己評価の基盤に対して教育効果を有する可能性が示唆された。